

クリスマススを祝して

高田 友

インターネットより引ききたる「東方正教會」の聖母論英文を翻譯仕り候。英文を讀まむと欲し給ふ方々は高田にメールを下さり候へば送信申し上げ候。

【翻譯】

天主の御母聖瑪麗亞は常處女にして、世の初めよりありし言葉を受肉し給ひけるテオトコス（希臘語／生神女）にておはします。正教會の信徒は、基督の誕生以前たると以後たるとを問はず、聖母はつひの處女にて終りたまへりと信じてあり。處女瑪麗亞に捧ぐる正教會の信仰は、聖書外傳「瑪麗亞の生誕」に多く紹介せらる。さは、正傳に含まれずと雖も、史實の記載に關しては過誤なかるべしと認めらる。幼な子瑪麗亞、三歳にて聖別せられ、「神殿の處女(temple virgin)」となりて彼處に仕ふるの御身とはならせたまひき。授、神殿の高僧なりしザカリア、於是勇を鼓し、瑪麗亞を神殿の奥深き聖室に伴ひ行きたるは、神の聖旨に副ひ奉るの覺悟を持たしめ奉らむが爲なり。即ち神を胎内に宿す箱舟とならむとの覺悟なり。顧十二に及びて、「神殿の處女」たるの職責を免ぜられて嫁ぎ行くの算段を強ひられたり。然れども、此人、自ら常處女にて神に仕へむと望むの儀あり。然則とて、選ばれたるは親族のジョセフなりき。叔父あるいは從兄なりきと傳へられ、老境に入らむとする鰥夫にして、貴顯に仕ふるが如くに瑪麗亞を傳育し常處女たらしめむとは誓ひけり。時満ちて、瑪麗亞は神の聖旨に従ひて基督を胎内に宿す。正教會信徒の過半、瑪麗亞は生涯罪を犯すの儀なかりきと信ず。雖、然、正教會は羅馬カトリックの「無原罪の御宿り」を信奉するにはあらず。神の母と雖も何條原罪を免るるを得べけむ。さはさりながら、正教會の定義する原罪はカトリックとはいささか違ふ所あるを知るべし。而して原罪を免れたるにはあらずと雖も、聖母は生涯を罪なく、穢れなく過したまひけり。正教會の教義に據れば、基督は受胎の瞬間より眞の神にて且はまた眞の人とぞ成り給ひき。さすれば理の歸結にて、信徒は、瑪麗亞は洵に天主の御母（これを正教會にては生神女と申し奉る）にて神を生み奉りたまひ、かつはありとある人の内にて我が子基督を除きては高きを極めたまひし最高位の人とは信ずるなり。天主の御母（生神女）なる用語は、正教會にては格別なる神學上の意義を有す。四世紀五世紀の基督教神學上の論争の中核を爲したればなり。

聖旨を果したまひて後も、瑪麗亞は生涯處女を棄つるの儀なかりきと正教會にては信ぜらる。我が子を伴ひて數多の旅に出でたまひ、また、我が子の十字架上の受難及び昇天の場にもおはしましき。聖母はまた、基督の復活を知りたる第一の人なりとも傳へらる。大天使

ガブリエル今一度示現して告げたればなり。「今一度」と申すは、受胎告知の折に繼ぎてとの義なり。聖母は長壽に恵まれたまひて古希を迎へ、臨終に際しては使徒を悉くその床に招きたまひき。傳説ありて、此時聖トマス刻限に遅れ、聖母は既にみまかりたまひぬ。於是、その御手に今を限りと接吻せむことを望み、墓を開きて見れば、御遺體は消滅してあり。正教會にては、聖母の御遺體は天に召されたりと説く。されど、羅馬カトリックの如くに此の奇蹟を教義として信奉するにはあらず。またこの聖日も、通常は、「就寢祭」と指稱せられ、カトリックの如くに「被昇天祭」として格別に尊崇するにはあらざるなり。

【創作詩】

聖母に捧ぐる四季の花

一

夢まだ醒めぬ山の邊に
樂しからずや鳥の聲
甘き薫を訪ぬれば
雛菊さには咲きにけり
ああ聖瑪麗亞我が爲に
祈らせたまふ朝明かな

二

渚涼しき浪の花
沖つ鷗の行方を
たれ白百合の濱風に
一本揺るる夏日影
さこそは君のほほゑみて
賤のをのこに語らるれ

三

雁金遠き入相を
いづくよりかと訝れば
透垣沁みて傳ひ來る
金木犀の匂ふなり
神の御母さは汝

今しもいます我が側に

四

雪に鎮まる花園の

草木みながら悴くとも

三五の月の照るからに

梅の蕾ぞ綻ぶる

憂き世濁世のからくれなる

恩愛周ねし聖き庭

(令和七年十二月二十四日受附)